

令和 3 年度第 2 回みやぎ観光振興会議石巻圏域会議概要

【委員からの主な御意見】

- ① 宿泊者数増に取り組む場合、地域の飲食の場等にスポットを当てた夜時間の充実といった内容を盛り込むとより効果的な内容となるのではないか。
- ② 地域の観光を発展させるためには、地域住民がその地域の観光資源をよく理解することがまずは重要である。
- ③ 観光客にエリアごとの過ごし方を具体的にわかりやすく提案するのがウィズコロナ時代の観光においては重要である。
- ④ 道の駅が、町のことを全く知らない層にも明確な目的地として選ばれる施設になっている点、一過性のイベントだけでなく、Reborn-Art Festival のような長期間継続するイベントも地域の観光にとって効果的である点が確認できた。
- ⑤ 食、景色、震災復興といった圏域の特徴を、SNS をプラットフォームとして画像で見せることが魅力発信の手段として効果的である。
- ⑥ 建造物等の観光資源を大切にし、それらを保全するような取組も実施して欲しい。
- ⑦ 宮城県は教育旅行の旅先として人気があり、震災防災と共に、SDGs 探求型学習の場として注目されているが、震災防災を SDGs プログラムに落とし込めていないため、震災防災に焦点を当てた SDGs プログラムの商品開発が重要である。
- ⑧ 石巻圏域は、被災地だからこそ生まれた発想を生かした、クリエイティブな、通常と違う発想を持った方々が多く、多くのファン、フォロワーを築いているため、その点を活かすと良いのではないか。
- ⑨ デジタル化の加速を含めた観光地づくりを考える上で、通信環境が非常に重要となる。ワーケーション等でお客様にノンストレスの状態の環境を作ることについての取組を進めるべきではないか。
- ⑩ 女川町や石巻市雄勝とでは復興の様子が全く異なる。その違いやストーリーを観光や震災学習の素材として打ち出してはどうか。
- ⑪ ビジネスで訪れる方々の消費の効果は非常に大きい。ビジネスで訪れて、何かを見て、学んで帰るというのも一つの観光と言えるのではないか。
- ⑫ 教育旅行の一つの分野として、スポーツツーリズムが石巻圏域の観光施策の柱となりうるのではないか。
- ⑬ 新しくできた施設等を活用した、クラシック音楽等のアートツーリズムも圏域の観光施策の柱として考えてはどうか。